

河野裕子短歌賞

は紫陽花」、青春の歌は鳥取県立鳥取東高、石名萌さん(16)の「干からびたカエルをよけてすすみゆくばいばい、わたしは夏をのりきる」が選ばれた。

また、優れた歌を多数投稿した学校を表彰する「最優秀校」には、学習院女子中等科(東京)と鳥取県立鳥取東高校が輝いた。

表彰式は11月10日、京都女子大学で行われ、選者の池田理代子さん、俵万智さん、永田和宏さんらによるトークショーも行われる。

―13面に選考過程と入賞者一覧

夢に見る息子はいつも幼子で
手をさしのべて助けてやれる

最優秀に永田さんら

平成22年に亡くなった女性歌人、河野裕子さんを顕彰する公募短歌大会「第7回」家族を歌う「河野裕子短歌賞」(産経新聞社主催、京都女子大学共催)の入賞者が20日、発表された。メイン部門「家族の歌・愛の歌」で最優秀の河野裕子賞に、大阪府豊中市の永田和美さん(61)の「夢に見る息子はいつも幼子で手をさしのべて助けてやれる」が選ばれた。

同部門と、新設の「自由題」、中高生対象の「青春の歌」の3部門に計1万5262首が寄せられた。自由題の河野裕子賞には島根県川本町の南部太さん(78)の「見送りに『てがみ』と指で書ひた窓廃線の駅今